

多言語多文化教育研究センター戦略重点経費実施報告書

採 択 年 度	令和 6 年度
事 業 名	English Cafe
執 行 額	244,000 円 (別紙「経費内訳書」のとおり)
申請者 (複数名で申請した場合は代表者と分担者)	(所属部門名・職名・氏名) 英語部門 講師 HOMBU AMY
	分担者 :
当 初 計 画 の 概 要	(出来るだけ分かりやすく記入) 学生の英語コミュニケーションスキルおよび TOEIC スコアの向上を目的とし、リスニング・スピーキング訓練を提供する場を設ける。
実 施 状 況	(具体的な実施状況を記入。当初計画を変更した場合は、その理由についても記入) 1. 日本人講師による指導 工学部および地域学部の TOEIC スコア向上を目指す学生を対象に、前期は火と水と木曜日、後期は月と火曜日のランチタイムを活用して TOEIC 学習セッションを実施しました。延べ 188 人参加しました。 2. ネイティブ講師による英会話セッション 後期の金曜日のランチタイムにはネイティブ講師を招き、英会話セッションを実施しました。延べ 39 人参加しました。
目 的 の 達 成 度 及 び 成 果	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、具体的な達成度と成果を記入) この活動は、本学の国際戦略および中期目標・中期計画に掲げられている「グローバル人材育成」の一環として実施されました。具体的な成果としては、参加学生の TOEIC スコアが前期平均 250.7 点から後期平均 321.9 点へと向上しました。 また、英語でのコミュニケーションに対する自信と意欲の向上につながったというフィードバックも得られています。特に、ランチタイムを活用した実施形式は、学生にとって学業との両立がしやすく、負担が少ない点で高く評価されました。
今 後 の 課 題	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、今後の課題や展開等を具体的に記入) この活動は、国際的な社会で活躍できる「グローバル人材」の育成を目指し、学生のリスニング・スピーキングスキルへの興味を持続させることを目的としています。今後の課題として、活動の周知を進め、より多くの学生に参加してもらうことです。また、セッションの内容を多様化し、学生の学習ニーズに応じたプログラムを充実させることも必要です。
備 考	

(注) 箇条書き等により、簡明に記載すること。頁数は増やしてもよい。

経 費 内 訳 書

区 分	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
●運営費				
消耗品費				
教材	1 式		49,839	
消耗品、文房具など	1 式		5,661	
備品費			0	
通信運搬費			0	
印刷製本費			0	
旅費交通費			0	場所・参加人数
謝金			0	場所・参加人数
学生チューター	35	1,000	35,100	学生 2 名
ネイティブ講師	13.5	5,200	70,200	非常勤講師①
講師	16	5,200	83,200	非常勤講師②
●設備費				
○○装置			0	
.....			0	
●工事費				
○○工事			0	
.....				
.....				
合 計	-	-	244,000	

- (注) 1. 可能な限り詳細に記載すること。
2. 備考欄に主な用途を記載すること。

多言語多文化教育研究センター戦略重点経費実施報告書

採 択 年 度	令和 6 年度
事 業 名	留学生と日本人学生の学外学習
執 行 額	173,477 円 (別紙「経費内訳書」のとおり)
申請者 (複数名で申請した場合は代表者と分担者)	(所属部門名・職名・氏名) 多言語多文化教育研究センター 日本語教育部門 小柴裕子
	分担者: 多言語多文化教育研究センター 英語部門 HOMBU Amy
当 初 計 画 の 概 要	(出来るだけ分かりやすく記入) 日本語授業を受講する留学生や、国際交流に関心のある日本人学生を主な対象とし、各学期の週末を利用して、2~3 回程度の宮崎県内および宮崎周辺県の学外学習を行う。活動内容により公用車、レンタカー等を移手段とする。旅費、活動費、雑費等を本経費より支出する。
実 施 状 況	1)宮崎中央卸売市場見学 2024 年 7 月 5 日実施 ・留学生 7 名参加 ・HP 掲載 (https://www.miyazaki-u.ac.jp/language/japanese/2024/07/post-2.html) ※宮崎大学基金支援事業予算利用 2)美術館・博物館見学 2024 年 11 月 10 日実施 ・留学生 8 名参加 ・HP 掲載 (https://www.miyazaki-u.ac.jp/language/japanese/2024/11/post-3.html) 3)大分臼杵バスツアー(旅費一部)2025 年 1 月 11 日実施 ・留学生・日本人学生・教員合わせて 25 名参加 ・HP 掲載 (https://www.miyazaki-u.ac.jp/language/japanese/2025/01/post-4.html) 以上の活動を通じ、留学生の日本文化理解と日本人学生との交流の機会を促進した。
目 的 の 達 成 度 及 び 成 果	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、具体的な達成度と成果を記入) 計画通りに進行し、達成度は良好である。日本語授業を履修していない 2 名の留学生の参加があり、中期目標 9-4「日本語学習機会」に寄与している。また、学部を超えた貴重な交流の機会となり、教育学部から継続の要望があった。
今 後 の 課 題	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、今後の課題や展開等を具体的に記入) 今後の課題は、より多数の学生の参加を募ることである。そのための学内での周知及び定着が課題である。
備 考	

(注) 箇条書き等により、簡明に記載すること。頁数は増やしてもよい。

経 費 内 訳 書

区 分	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
●運営費				
消耗品費				
書籍	1		78,300	(予算執行照会参照)
筆記用具類	1		60,417	
.....			0	
備品費				
.....			0	
.....			0	
通信運搬費				
.....			0	
.....			0	
印刷製本費				
.....			0	
.....			0	
旅費交通費				
白杵大仏観覧料	25	550	13,750	留学生16名日本人学生4名教員5名
博物館移動費	1		2,940	留学生8名教員2名
旅費(宮崎～大阪)	1		18,070	大阪大学複言語複文化教育研究センター主催
○○費				シンポジウム参加(海外の大学にお
.....				ける活動実践など、今後の取り組み
				の参考とした)
●設備費				
○○装置			0	
.....			0	
●工事費				
○○工事			0	
.....				
.....				
合 計	-	-	173,477	

- (注) 1. 可能な限り詳細に記載すること。
2. 備考欄に主な用途を記載すること。

多言語多文化教育研究センター戦略重点経費実施報告書

採 択 年 度	令和 6 年度
事 業 名	本学における日本語教育整備事業
執 行 額	121,913 円 (別紙「経費内訳書」のとおり)
申請者 (複数名で申請した場合は代表者と分担者)	(所属部門名・職名・氏名) 日本語教育部門・講師・小柴裕子
	分担者 :
当初計画の概要	(出来るだけ分かりやすく記入) 本学における日本語教育の充実化に向け、 ① 日本語科目の充実化 ② 非常勤講師の授業準備のための日本語準備室の整備 ③ 授業担当者間における教育研究会の実施 以上、3点に取り組む。
実施状況	(具体的な実施状況を記入。当初計画を変更した場合は、その理由についても記入) 計画の実施状況は次の通りである。 ① 日本語授業科目について:大学院生を対象とした英語による日本事情の授業や国内就職を目指すためのビジネス日本語科目を設置した。 ② 日本語準備室について:本棚を配置し、日本語教科書・関連図書を収納した。また、机・椅子・冷蔵庫・電子レンジなども配置し、非常勤講師の授業準備のための環境を整えた。 ③ 教育研究会について:授業担当者間で、従来の科目や新設科目における授業研究を実施し、授業内容の質の向上に取り組んだ。(日本語部門会議議事録参照)
目的の達成度及び成果	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、具体的な達成度と成果を記入) 計画通りに進行し、達成度は良好である。4 月から新たに開設した 2 科目についても、留学生の履修状況は順調である(ビジネス日本語 5 名、Japanese Society and Culture3 名/在籍留学生数 107 名)。本学の日本語教育の充実化は、中期目標 9-4「日本語学習機会」に寄与する。
今後の課題	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、今後の課題や展開等を具体的に記入) 日本語非常勤講師の方々との授業研究は、今後も継続予定である。これらの成果は、今後、地域において報告したいと考えている。
備 考	

経 費 内 訳 書

区 分	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
●運営費				
消耗品費				
.....			0	
.....			0	
.....			0	
備品費				
ガラス引戸書庫	1		60,643	
冷蔵庫	1		21,670	
掃除機	1		39,600	
通信運搬費				
.....			0	
.....			0	
印刷製本費				
.....			0	
.....			0	
旅費交通費				
.....			0	場所・参加人数
.....			0	場所・参加人数
○○費				
.....				
●設備費				
○○装置			0	
.....			0	
●工事費				
○○工事			0	
.....				
.....				
合 計	-	-	121,913	

- (注) 1. 可能な限り詳細に記載すること。
2. 備考欄に主な用途を記載すること。

多言語多文化教育研究センター戦略重点経費実施報告書

採 択 年 度	令和 6 年度
事 業 名	2024 年度 中国語・韓国語 留学生との交流会 in 多言語多文化教育研究センター
執 行 額	54,000 円 (別紙「経費内訳書」のとおり)
申請者 (複数名で申請した場合は代表者と分担者)	(所属部門名・職名・氏名) アジア・ヨーロッパ系部門・教授・金智賢 分担者：アジア・ヨーロッパ系部門・講師・張婧禕
当初計画の概要	(出来るだけ分かりやすく記入) 本事業は、宮崎大学で中国語や韓国語を受講している学生が、中国語圏の国や韓国からの留学生によるプレゼンテーション鑑賞や彼らとの交流を通じ、海外の文化体験、外国語学習のモチベーションアップを図ることを目的とするものである。宮大生の国際感覚や多文化共生への理解を深める宮崎大学国際化事業として実施する。
実施状況	(具体的な実施状況を記入。当初計画を変更した場合は、その理由についても記入) 多言語多文化教育研究センター、アジア・ヨーロッパ系部門の主催として、金智賢 (韓国語) と張婧禕 (中国語) が担当し、以下の通りに進めた。 ・日程・場所：2025 年 1 月 22 日、24 日 (各 1.5 時間程度)・教育棟 L205 ・イベントの構成 前半：留学生による文化や日常生活についてのプレゼンテーション (プレゼンテーションは中国語圏・韓国留学生各 4 名、計 8 名) 後半：質疑応答、交流会 ・終了後参加者からのフィードバックを得るのアンケートを実施。 授業内案内、ポスター、Allkibana などより、宮崎大学の中国語および韓国語を受講している学生、中国語や韓国語に興味のある学生に呼びかけた。
目的の達成度及び成果	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、具体的な達成度と成果を記入) 中国語および韓国語受講生に留学生と直接交流する機会を提供し、中国語圏および韓国の文化体験、外国語学習のモチベーション向上及び海外の友人を作ることなどを通じた国際感覚の培養を目的とし、将来的には、宮大生の海外留学へつながる効果も目指している。2 回に亘るイベントで、参加者は延べ 80 名と盛況だった。アンケート調査では、外国人と話す機会は今までなかったのがよかった、新しい文化を学ぶことで世界が広がった気がした、留学生を見かけても話す勇気が出なかったのが交流会で話ができよかった、友達を作ることができたなどといった回答があり、目的は一定部分達成できたと考える。
今後の課題	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、今後の課題や展開等を具体的に記入) 本事業は、本学の学生の国際感覚涵養という意味で続けていく必要があるが、中国語の専任がいなくなり、今後の事業運用においては懸念がある。以前は前後期 4, 5 回ずつともっと多かったのをコロナ以降徐々に回数を取り戻していく予定だったため、その計画にも支障が生じている。今後、留学生を活用するなど、運用方法を工夫していく必要がある。
備考	

(注) 箇条書き等により、簡明に記載すること。頁数は増やしてもよい。

経 費 内 訳 書

区 分	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
●運営費				
謝金 留学生（8名）＋日本人学生（1名） 1000円*3時間*2日=6000円*9名	9	6,000	54,000	プレゼンの準備時間 交流会当日の参加時間 会場設営時間などを含む
合 計	-	-	54,000	

- (注) 1. 可能な限り詳細に記載すること。
2. 備考欄に主な用途を記載すること。

多言語多文化教育研究センター戦略重点経費実施報告書

採 択 年 度	令和6年度
事 業 名	多言語教育における音韻処理と抑制操作の探求：国際的な研究成果の公開と学术交流の促進
執 行 額	70,000 円（別紙「経費内訳書」のとおり）
申請者（複数名で申請した場合は代表者と分担者）	（所属部門名・職名・氏名） アジア・ヨーロッパ部門 張 セイイ
	分担者：なし
当 初 計 画 の 概 要	本事業は、多言語多文化教育研究センターにおける中国語教育に関する教育研究成果を国際的に発信し、国際化の推進および教育研究力の向上を図ることを目的としていました。特に、中国語の発音における音韻処理と抑制操作に関する研究成果（Zhang & Tamaoka, 2024）を SSCI 収録誌 <i>Psychologia</i> （Impact Factor = 0.5）にオープンアクセスで公開し、さらに各国から研究者を招待し、ZOOM による公開講演会を実施することで、国際学术交流を促進することを目指しました。
実 施 状 況	研究成果の論文「Harmonizing Sounds: The Navigation of Phonological Processing in Pinyin and Hanzi by Early Japanese CFL (Chinese as a Foreign Language) Learners」が SSCI 国際ジャーナル <i>Psychologia</i> にオープンアクセス（費用は約 12 万円）で公開されました。論文は http://dx.doi.org/10.2117/psysoc.2023-A254 からアクセスし、ダウンロードできます。なお、全予算が 7 万円なので、国際学术交流会を開催するには不足しており、実施できませんでした。
目 的 の 達 成 度 及 び 成 果	本事業は国際的発信力の向上に大きく寄与し、十分に達成しました。研究成果は国際的に公開され、国内外の研究者が容易にアクセスできる環境が整備されました。これにより、宮崎大学多言語多文化教育研究センターの教育研究力が強化され、国際的なプレゼンスも一段と向上し、今後の共同研究の可能性も広がりました。
今 後 の 課 題	以下の2点は今後の課題とします。 （1） 研究成果の国際的発信力のさらなる強化 （2） 学術レベルの高いイベントの企画・実施
備 考	

(注) 箇条書き等により、簡明に記載すること。頁数は増やしてもよい。

経 費 内 訳 書

区 分	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
●運営費 論文掲載料	1	70,000	70,000	
合 計	-	-	70,000	

- (注) 1. 可能な限り詳細に記載すること。
2. 備考欄に主な用途を記載すること。

多言語多文化教育研究センター戦略重点経費実施報告書

採 択 年 度	令和 6 年度
事 業 名	韓国語能力検定試験対策講座
執 行 額	41,600 円 (別紙「経費内訳書」のとおり)
申請者 (複数名で申請した場合は代表者と分担者)	(所属部門名・職名・氏名) アジア・ヨーロッパ系部門・教授・金智賢
	分担者：なし
当 初 計 画 の 概 要	(出来るだけ分かりやすく記入) 宮崎大学の韓国語検定の受験希望学生のニーズに応えるために、毎年実施している韓国語能力試験 (TOPIK) の対策講座を今年も継続して実施した。対策講座の受講は、実際 TOPIK を受けるための準備だけでなく、それ自体で学習になるため、学生の語学力向上も狙いの一つである。
実 施 状 況	(具体的な実施状況を記入。当初計画を変更した場合は、その理由についても記入) 金智賢が担当・監督し、以下の通りに実施した。 ・試験日：2025 年 4 月 13 日 (日) (TOPIK 第 98 回、TOPIK I・II) ・対策講座等の開設日：2025 年 3 月 17 日・21 日・24 日・28 日 4 回実施 ・実施場所：教育棟 L205 ・実施方法：申允珠先生が講師として対策講座を実施、TOPIK の受験方法から勉強方法の説明、過去問解説、質疑応答等を行った。
目 的 の 達 成 度 及 び 成 果	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、具体的な達成度と成果を記入) 韓国語能力試験の受験希望学生に対する語学力や試験準備等の体系的サポートや過去問解説等による韓国語勉強等を目的とする講座で、今回は延べ 10 名の参加者があった。中には、4 月に実際受験した学生もいるが、対策講座のみ受講する学生もいた。2025 年前期の教養韓国語Ⅲには、対策講座を受け 4 月に受験したという受講生もおり、対策講座が役に立ったと話している。人数は多くないが、学生支援の意味では確実に成果を挙げていると言える。
今 後 の 課 題	(本学の国際戦略及び中期目標・中期計画とその評価結果等と関連付けつつ、今後の課題や展開等を具体的に記入) 申請時期の 1 月中に授業で実施するアンケートでは、15 名の対策講座受講希望者があったが、3 月になると帰省などのため参加者が減少する傾向にある。昨年より宮崎大学が、もう一つのメジャー検定であるハングル能力検定試験の試験場になったため、今後はハングル検定の方の対策講座への転換も構想中である。ハングル検定の場合、TOPIK と時期が異なり、対策講座の開講時期が春休みとは重ならないため、より効果的に運用できるのではないかと考える。
備 考	

(注) 箇条書き等により、簡明に記載すること。頁数は増やしてもよい。

経 費 内 訳 書

区 分	数量	単価(円)	金額(円)	備 考
●運営費				
人件費 講師雇用費 (@5200*2H*4日)	4	10,400	41,600	
合 計	-	-	41,600	

- (注) 1. 可能な限り詳細に記載すること。
2. 備考欄に主な用途を記載すること。